

市民センター社会教育課 (☎④4413)
生涯学習係(内線271、272)、芸術振興係(内線270)



11月の市民芸術祭は展示・舞台上で技術技能を発表します

新「遠野市芸術文化協会」 加盟団体を募集します

四月に「遠野市芸術文化協会」が新たに設立されます。遠野市芸術文化協会と宮守芸術文化協会が解散し、新たな組織になるもので、加盟団体を募集します。新協会では、市の芸術文化の発展と意識の高揚に貢献しながら、芸術文化の振興を図ることを目的に活動していきます。講演会などの自主事業の企画・実施を行ったり、日ごろ鍛錬している技能技術の成果を市民芸術祭や各種行事で発表したり、主体的な事業運営を行っていきま

す。また、親睦交流会を開催して会員相互の親睦も深めていきます。遠野の芸術文化を高め、幅広い活動につなげるために、ぜひ加盟してみませんか。加盟を希望する団体(個人)は所定の申込用紙に必要事項を記入し、社会教育課芸術振興係に提出してください。申込用紙は市民センター、各地区センターにあります。



石膏デッサンの様子

- 申し込み締め切り 3月30日 (金)
- 年会費 4,000円を予定 (個人・団体とも)
- 問合せ先 遠野市・宮守芸術文化協会合併協議会事務局 (社会教育課芸術振興係内)
- 石膏によるデッサン教室を開催します
日ごろ、「絵を描いてみたいがチャンスがない」「基礎が分からない」という初心者のためのデッサン教室を開催します。
- 期日 4月13・20・27日、5月11・18・25日の毎金曜日計6回(午後7時～9時)
- 場所 市民センター青少年ホーム2階集客室
- 参加費 1,000円(材料代)
- 申し込み締め切り 4月6日 (金)
- 講師 Ⅱ 絵画グループ・トオ

一月三十日、市生徒指導推進協議会研修会が開催され、教育関係者・保護者・関係機関から約百人が参加しました。前半は十グループに分かれて今起きている「いじめ問題」について、「好ましい人間関係づくり」をテーマに話し合いをしました。大人がときには厳しく教えること、命の大切さを教えること、「いじめを許さない決意が必要」など、活発な討議が行われ

「好ましい人間関係とは」 生徒指導推進協議会

一月三十日、市生徒指導推進協議会研修会が開催され、教育関係者・保護者・関係機関から約百人が参加しました。前半は十グループに分かれて今起きている「いじめ問題」について、「好ましい人間関係づくり」をテーマに話し合いをしました。大人がときには厳しく教えること、命の大切さを教えること、「いじめを許さない決意が必要」など、活発な討議が行われ



いじめについてグループで討議

宮沢賢治をテーマに講演会

宮沢賢治の調査研究を行っている宮沢賢治学会イーハトーブセンター等が主催し、遠野市教育委員会共催で、講演会を開催します。

- 日時 3月24日(土)
- 会場 みやもりホール
- 内容 ①午後2時30分～3時10分 「宮沢賢治と佐々木喜善」
講師 作家 三好京三氏
②午後3時20分～午後4時 「宮沢賢治と遠野」
講師 遠野市立博物館長 東京学芸大学教授 石井正己氏

◆どなたでも無料で聴講することができます。お気軽にご参加ください。
問い合わせ先=宮沢賢治イーハトーブ館 (☎0198②2116)

※ASTは遠野農業活性化本部「あぐりステーション 遠野」の通称で、農業活性化を目指す県・J.A・市の合同機関です。



元気いっぱいの遠野農業を目指して

— 農家自身の「こうしたい！」を応援しています —

ホームページ(<http://www.tonotv.com/members/ast1055/>)で、市内の農業情報などを配信中



良苗作りが欠かせないトルコギキョウにさらなる一歩

遠野ブランドをけん引する 花き生産者の取り組み

新たな花き育苗
水やりは「霧」

市内三戸の花き生産者では、アストの平成十八年度事業を活用し新たな花き育苗施設を導入しました。苗を置くための棚を組み、そこに霧状に散水するという簡便な装置です。現在、市内で行われている花き育苗の大半を占める「プール育苗」と呼ばれる方式は、高い技術と管理の手間が必要で、水分過多から苗の品質低下を招きやすいという弱点があります。しかし、施設の改善は導入経費がかさむこともあり、なかなか進んでいませんでした。

写真で学ぶ花づくり 新規栽培者も支援中

一月二十、二十七日の二日間、花き栽培の導入を検討している人や導入後もわからない人などを対象にした「写真で学ぶ花づくり」講座を開催しました。初級と中級に分けた講座には、二十七人が参加。この講座では、ただ話を聞いたり文字を読んだりするのでは



講座では、販売単価ごとの手取り額も試算

なく、全部で八十五枚の実例写真を見ながら、生育の流れをとらえることを重視しました。また、講師を務めた遠野普及サブセンターの柳谷浩子普及員が、資料を手にするだけでは分からない品目別収支や、その導入決定に向けた考え方などについてじっくり解説しました。この講座を通じて現在三人の方々が新規栽培・品目導入へ向けて本格検討中、関係機関が連携して栽培計画などの支援を実施しています。

花き育苗先進地「秋田」 視察で見た技術は?

二月五日、秋田県花き種苗センターで「育苗現地事例研修会」を実施しました。育苗管理についての知識をいっそう高めてもらおうというもので、市内花き生産者十九人が参加しました。

お問い合わせは



試作中の冬作品目ランキュラスについても意見交換

同センターでは、秋田県内の花き生産者の九割から育苗を委託されており、およそ四百万本の花苗が育てられています。研究・実証も行っていて、近年躍進著しい「秋田の花」の中核を担っています。今回は、トルコギキョウ育苗中の追肥や温度管理などの技術を中心に学びました。まだ市内では確立されていない技術もあり、生産者は質問をしながら熱心にペンを走らせていました。